

## 研究助成金・海外留学フェローシップの 新規分野募集を開始します



- 令和元年度募集事業 (詳細2面)
- 海外留学体験記 (詳細2面)
- 小児医学研究振興財団の市民公開講座 (詳細3面)

### 理事長挨拶



小児医学研究振興財団  
理事長  
高橋 孝雄

鴨下重彦初代理事長、柳澤正義前理事長の後任として、理事長を拝命いたしました高橋孝雄と申します。

当財団は日本小児科学会創立100周年の記念事業として設立され、以後10年以上にわたって運営を続けて参りました。多くの小児科医の方々や協賛企業からの寄付、ご支援のお陰により、過去11年間に、総額1億2200万円の研究助成、5000万円の海外留学助成、39件の優秀論文表彰、計6回の市民公開講座の開催などの事業を展開することができました。今年度からは日本小児科学会から経常的な資金援助を頂けることとなり、今まで以上に安定した財団運営、研究助成事業の遂行が可能となると期待されております。

研究は自然科学、社会人文科学としての小児科学の発展にとって不可欠であり、診療、教育の駆動力でもあります。日常診療や後進の指導に明け暮れる日々の中で、若手の小児科医が研究者としてのキャリアを歩む機会を逸することのないよう、今後ともタイムリーな支援を行っていききたいと思っております。

財団の運営には皆様からのご寄付が不可欠です。どうか倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 市民公開講座は本年度で7回目を迎えます

当財団では、平成25年度から市民公開講座を開催してまいりましたが、本年で7回目を迎えます。

平成28年度からは、市町村区と連携を図り、テーマに関係した窓口の担当者に講師として参加いただき、子どもの医療・健康に関する情報を小児科医と行政が協働で発信しています。

行政と連携することによって、幼・保育園や小学校、図書館や児童館といった公共機関でのチラシ配布が可能となり、個々の家庭へ広報の裾野が広がりました。

チラシは、保護者の皆様が悩まれているようなこと、気にはなっているが、受診や幼・保育園、学校の先生に相談するほどでもないだろうと感じる子どもの日常生活の些細な場面をイラストで表現し、講座の内容を理解していただきやすいように作成しています。

また、講師には、当財団の海外留学フェロシップで留学された先生方が登壇されることもあり、長く続けられた研究や臨床での知見を保護者の皆様に直接お伝えいただく場にもなっています。

本年度は過去6回の講座アンケートの結果を踏まえ、特に、保護者の皆様に寄り添ったテーマで開催をいたします。

子どもの病気の情報だけでなく、お子さんを看病しているご家族が利用できる施設や窓口の紹介も含めた有益な講座となるよう鋭意準備を進めています。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。



平成28年

「気になる子どもの支援」

— 発達特性・発達障害の理解と支援 —

• 発達特性 • 学習障害 • 二次障害

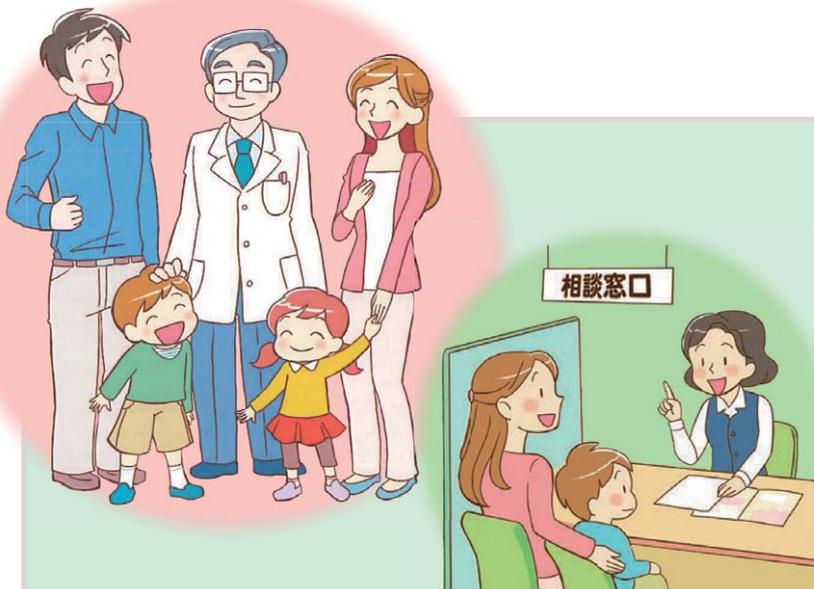


平成29年

「こどもの食事・これで大丈夫？」

— 食事の悩み・太り気味・やせ気味の子どもへの対応と予防 —

• やせ/肥満 • 偏食 • 食育



令和元年

「病気とともに生きる子どもと家族を支えるネットワーク」



平成30年

「親子の係りと子どもの発達」

— 子どもの脳を育む —

• 発達 • 虐待 • スマホの利用

小児科医・小児医学研究者に対する研究費・海外留学費用の助成の募集受付は11月1日(金)から開始します。募集締切は、12月1日(月)必着です。詳しくは下記財団ホームページにてご確認ください。

## 1 研究助成金支援(国内での研究)

- |                                |                             |
|--------------------------------|-----------------------------|
| ① 小児科領域全般に関する研究費助成             | 1件200万以内：総額700万円            |
| ② アサヒグループ研究助成金(乳幼児栄養に関する研究費助成) | 2件程度：総額100万円                |
| ③ 小児の社会医学的研究(疫学・統計含む)          | 1件100万以内：総額300万円 ★令和元年度より開始 |

## 2 海外留学フェロシップ(海外での研究)

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| ① 小児科領域全般に関する海外留学奨学金  | 総額350万円 ★令和元年度より開始 |
| ② 子どもの心の問題に関する海外留学奨学金 | 1件150万円            |

## 3 優秀論文アワード

### アワード概要

- ① 下記機関誌に掲載された、優れた研究論文を表彰する。
- ② 選考は各機関誌を発行する学会から優秀論文として推薦を受け、当財団の選考委員会が選考を行い、1件30万円、総計4件120万円を筆頭筆者へ授与する。
- ③ 令和元年12月31日時点で原則として、満40歳未満の執筆者を対象とする。

### 選考対象誌(平成31年1月～令和元年12月発行)

- ① 日本小児科学会機関誌「日本小児科学会雑誌」、「Pediatrics International」から各1編
- ② 日本小児神経学会機関誌「脳と発達」または「Brain&Development」から1編
- ③ 日本小児精神神経学会機関誌「小児の精神と神経」または日本小児心身医学会機関誌「子どもの心とからだ」から1編、

### 選考結果発表

令和2年3月中旬に当財団ホームページ上で発表のうえ、令和2年第123回日本小児科学会学術集会会期中に表彰する。

募集期間：令和元年11月1日(金)～令和元年12月2日(月)

募集締切：令和元年12月2日(月)必着

<http://www.jfpedres.or.jp/>

## 留学体験記



国立成育医療研究センター  
集中治療科

井手 健太郎

### カナダ、トロント小児病院での基礎および臨床研究の経験

私は平成24年度小児医学研究振興財団の海外留学フェロシップの御援助の下、平成24年7月から平成27年1月まで、カナダにあるトロント小児病院集中治療科およびThe Neuroscience and Mental Health Programに留学させていただきました。

Dr. Jamie Hutchisonの元、頭部外傷小児の血清および髄液検体のバイオマーカーを測定し、予後推定を行う研究に従事し、バイオマーカー測定とその解析だけでなく、臨床心理士のアウトカムとしての高次機能評価の実際を知ることができました。

同時にHarvard大学が主催する1年間の臨床研究研修プログラムであるGlobal Clinical Scholars Research Training Programに参加し、臨床研究の基礎を学びました。そして、留学中に国立成育医療研究センターの軽症頭部外傷小児に対する後方的観察研究に関する論文(Ide K et al. Acad Emerg Med 2017)をまとめ、その後の本邦小児救急領域初の多施設共同前向き観察研究の礎としました。

今後もトロントで行ってきた研究および臨床研究の知見を生かして、小児頭部外傷および小児神経集中治療領域に少しでも貢献できるように努めて参ります。今回の貴重な経験を得ることができた海外留学をご支援いただきました小児医学研究財団にこの場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



上司(Dr. Jamie Hutchison)と学会ポスター前にて

# 賛助会員ご加入の御礼とご協力のお願い

いつも当財団の活動に賛同いただき、厚く御礼申し上げます。

本号では、本年度の実施事業と市民公開講座のご案内を掲載いたしました。

財団の事業は、皆様からのご寄付金及び賛助会費等で実施しており、ご協力をいただいている法人企業・個人会員の皆様には、あらためて心より御礼申し上げます。

財団は、昨年設立10年を迎えました。設立当初に、若手医師とし

て支援させていただいた先生方が指導者になられ、市民公開講座の講師をお務めくださるという流れもでき、若手医師の支援だけではなく、小児科の先生方とともに、病気を抱えるお子様と保護者の皆様を支える事業も開始することができました。

本号は、会員以外の全国の小児科の先生方にもお送りしております。是非、おひとりでも多くの先生方に賛助会員として、ご指導・ご協力いただければ幸いです。

## 賛助会員(個人)

※敬称略 五十音順

- |   |  |  |   |   |  |  |  |
|---|--|--|---|---|--|--|--|
| 赤司 俊二<br>旭 壯一郎<br>安次 馨<br>東 寛<br>足立 雄一<br>熱田 裕<br>雨宮 伸<br>鮎沢 衛<br>新垣 義夫<br>荒川 浩一<br>有賀 正<br>飯島 一誠<br>飯塚 幹夫<br>五十嵐 隆<br>池本 博行<br>石井 尚吾<br>石井 正浩<br>石倉 健司<br>石崎 朝世<br>位田 忍<br>井田 博幸<br>井田 孔明<br>板橋 家頭夫<br>市田 路子<br>市橋 光<br>伊津見 梓<br>逸見 陸心<br>伊藤 悦朗<br>伊藤 秀一<br>伊藤 末志<br>伊藤 進<br>伊藤 辰夫<br>伊藤 保彦<br>伊藤 雄平<br>稲垣 治<br>稲垣 由子<br>井原 健二<br>井原 幸子<br>今井 秀人<br>今村 俊彦<br>岩田 敏<br>岩元 力<br>岩元 二郎 | 内田 正志<br>内田 祐子<br>宇理 須厚雄<br>江口 尚彦<br>衛藤 隆<br>衛藤 義勝<br>遠藤 文夫<br>小穴 慎二<br>老田 礼子<br>尾内 一信<br>大賀 正一<br>大澤 真木子<br>大嶋 勇成<br>大久保 美登里<br>大藪 恵一<br>太田 節雄<br>太田 秀臣<br>大塚 農<br>大西 正純<br>大野 耕策<br>岡 明<br>岡田 純一<br>岡田 満<br>岡田 緒方<br>岡部 一郎<br>岡本 博文<br>小川 俊一<br>沖 潤一<br>小口 学<br>奥山 眞紀子<br>小栗 絢子<br>小田 慈<br>小田 切美知子<br>小堂 欣彌<br>小野 厚<br>小野 靖彦<br>賀川 治美<br>加治 正行<br>加藤 康弘<br>加藤 達夫<br>加藤 均<br>加藤 誠 | 加藤 正彦<br>加藤 有一<br>加藤 陽子<br>門脇 弘子<br>金子 一成<br>加納 芳郎<br>鴨下 和子<br>河 敬世<br>河西 紀昭<br>川口 浩史<br>川又 はるみ<br>川崎 晋<br>神崎 岡節子<br>貴田 幸子<br>北中 幸子<br>北本 育子<br>木野 稔<br>木村 宏<br>隆 聡<br>楠田 浩一<br>楠原 協志<br>工藤 政勝<br>久保 満<br>倉辻 忠俊<br>倉 繁夫<br>郡 建男<br>小池 健一<br>小泉 晶一<br>小泉 ひろみ<br>河野 幸治<br>河野 陽一<br>香美 祥二<br>神山 潤<br>幸山 洋子<br>興岳 ひで<br>兄玉 浩子<br>後藤 彰子<br>後藤 敦子<br>後藤 雄一<br>小林 繁一<br>小林 正夫<br>小山 典久<br>小山 佳紀 | 犀川 太<br>齋藤 伸治<br>齋藤 博久<br>齋藤 進一<br>佐伯 六雄<br>嵯峨 規夫<br>酒井 康成<br>坂本 由美<br>佐久間 弘子<br>櫻井 嘉彦<br>佐々木 望<br>椎谷 由里<br>四方 あかね<br>重松 陽介<br>柴田 瑠美子<br>嶋田 泉司<br>清水 俊明<br>下条 直樹<br>下村 国寿<br>白井 真美<br>白石 裕比湖<br>白川 嘉継<br>末延 聡一<br>杉本 徹<br>杉本 久和<br>杉本 圭相<br>鈴木 孝<br>鈴木 敏雄<br>鈴木 康太郎<br>鈴木 亮<br>須田 憲治<br>須磨 亮<br>清野 佳紀<br>関 秀俊<br>関口 進一郎<br>瀬島 齐<br>高島 俊夫<br>高橋 協<br>高橋 孝雄<br>高橋 勉<br>滝沢 琢一<br>滝田 順子 | 宅見 徹<br>竹重 博子<br>竹島 泰弘<br>武知 哲久<br>竹広 茂子<br>田島 剛篤<br>田中 なみ<br>田中 英高<br>玉井 浩<br>田村 喜久子<br>田村 正徳<br>千田 勝一<br>長 和彦<br>長 秀男<br>塚田 明子<br>土屋 與之<br>堀 晶子<br>堤 裕幸<br>鶴澤 正仁<br>手塚 正雄<br>寺井 道之<br>寺門 春三郎<br>寺本 貴英<br>遠山 拓郎<br>戸苅 創<br>外木 秀文<br>富沢 修一<br>永井 崇雄<br>永尾 尚子<br>永島 哲郎<br>中坪 希美<br>中野 貴公<br>中村 俊俊<br>中畑 龍俊<br>中原 智子<br>成田 雅美<br>新津 直樹<br>西澤 四郎<br>新田 康郎<br>西巻 滋<br>布井 博幸 | 橋本 和廣<br>長谷川 奉延<br>長谷川 行洋<br>長谷川 俊史<br>長谷川 茉莉香<br>長谷川 美香<br>羽田野 爲夫<br>服部 益治<br>服部 元史<br>馬場 常嘉<br>早川 依里子<br>原 寿郎<br>原 正守<br>張田 豊<br>波呂 久美子<br>春田 恒和<br>日暮 眞<br>平尾 敬男<br>平山 雅浩<br>廣瀬 伸一<br>廣津 卓夫<br>福重 淳一郎<br>深尾 敏幸<br>深澤 隆治<br>福永 慶隆<br>藤井 達哉<br>藤枝 幹也<br>藤岡 雅司<br>藤木 伴男<br>藤田 弘子<br>藤野 滋<br>藤村 匠<br>藤原 匠<br>二村 真秀<br>船戸 正久<br>船曳 哲典<br>舟本 仁一<br>平家 俊男<br>別所 文雄<br>保坂 シゲリ<br>星加 忠孝<br>星加 美恵子<br>保科 弘毅 | 細井 創<br>細矢 光亮<br>堀川 玲子<br>堀米 仁志<br>前川 喜平<br>前多 治雄<br>前田 美穂<br>正木 拓朗<br>松井 陽<br>松尾 宣武<br>松尾 雅文<br>松尾 宗明<br>松平 隆光<br>松永 伸二<br>真部 淳<br>丸山 剛志<br>丸山 博<br>三池 輝久<br>水谷 修紀<br>水野 克己<br>南沢 享<br>三牧 正和<br>宮島 祐<br>宮代 英吉<br>麦島 秀雄<br>村瀬 雄二<br>村田 要一<br>本村 知華<br>元山 福祥<br>森 哲夫<br>森内 浩幸<br>森尾 友宏<br>森川 昭廣<br>森口 直彦<br>森下 秀子<br>守田 利貞<br>森田 友明<br>森脇 浩一<br>師井 敏裕<br>八木 信一<br>安田 寛二<br>柳川 幸重<br>柳澤 正義 | 籾内 弘<br>山内 秀雄<br>山内 穰滋<br>山川 毅<br>山形 崇倫<br>山口 清次<br>山下 薫<br>山下 美代子<br>山城 雄一郎<br>山下 裕史朗<br>山田 恭聖<br>山野 恒一<br>山本 圭子<br>山本 威久<br>山本 玉路<br>山脇 英範<br>横田 俊平<br>横谷 進<br>横山 茂<br>横山 義正<br>吉岡 和之<br>吉岡 三恵子<br>吉川 哲史<br>吉田 康子<br>吉田 ゆかり<br>吉田 信美<br>吉原 重美<br>脇口 宏<br>和田 和子<br>渡邊 信雄<br>渡辺 博<br>渡部 礼二 |
|---|--|--|---|---|--|--|--|

## 賛助会員(法人)

- アサヒグループ食品株式会社
- エーザイ株式会社
- MSD株式会社
- 杏林製薬株式会社
- Story of the tortoise株式会社
- 第一三共株式会社
- 帝人ファーマ株式会社
- 株式会社ナチュラルサイエンス
- Meiji Seika ファルマ株式会社
- 医療社団法人 メディカル・プロ

## 協賛企業

- アサヒグループ食品株式会社
- アステラス製薬株式会社
- 株式会社オグラ
- JCRファーマ株式会社
- 武田薬品工業株式会社
- 中外製薬株式会社
- 大日本住友製薬株式会社
- 日本マクドナルド株式会社
- ノボルディスクファーマ株式会社
- マルホ株式会社

賛助会費は、所得税控除または  
税額控除を受けられます。

個人 1口/年 10,000円 法人 1口/年100,000円

ご入会・会員のご所属先変更などのご連絡は、下記で承っております。

事務局



公益財団法人 小児医学研究振興財団  
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B

TEL (03) 5818-2601 / FAX (03) 5818-2602

e-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp

http://www.jfpedres.or.jp/

## 「子どもの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理事大臣ご在任中にお書きいただいたものです。

編集後記

この度、高橋孝雄日本小児科学会会長が当財団の理事長に就任されました。本財団の小児医学研究振興のための必要性は以前よりも高くなっています。遺伝子に関連する分野に限って見ても、遺伝子解析・改変、precision medicine、遺伝子治療、CAR-T療法、NIPTなど、遺伝子に関連する技術やそれを応用した医療の進歩は著しく、この分野における小児医学研究が必要とされています。当財団への関係者の御理解と御支援をこれからもどうぞよろしくお願ひ致します。

(常務理事 五十嵐 隆)